

第0章

第1章

第2章

第3章

第4章

第5章

第6章

第7章

第8章

第9章

第10章

第11章

第12章

第13章

第14章

DOLPHINROSE

AC 無料講座

第12章

『AC をする上で注意したいこと（その2）』





目次

1. ごあいさつ
2. 伝える時にやってはいけないこと
3. 言葉選びに注意しましょう
4. 亡くなった子と話す場合
5. 過去生・生まれ変わりについて

※本教材、および収録されているコンテンツは、著作権、知的財産権によって保護されております。

教材に含まれているコンテンツを、その一部でも、書面による許可(ライセンス)なく複製、

改変するなどして、またあらゆる データ蓄積手段により複製し、

オークションや インターネット上だけでなく、転売、転 載、配布等、いかなる手段においても、

一般に提供することを禁止します。

1. ごあいさつ

こんにちは(^^♪ゆうです。

第12章では、前回からの続きで『ACをする上で注意したいこと（その2）』になります。

2.

伝える時にやってはいけないこと

ACの練習を始めたばかりのときに、ついついやってしまいがちな落とし穴についてお話します。

飼い主さんへの伝え方の落とし穴は次の3つになります。

1. 自信がないので言わないでおく
2. 怖いので大きな範囲で伝える
3. 受け取ったものを伝える前に飼い主に質問をする

それでは1つ1つ説明していきますね。

1. 自信がないので言わないでおく

動物たちからふと何か受け取ったような気がしたのに

「まさかね」

「そんなことあるわけないよね」

と、伝える前に自分で打ち消してしまう…

これは

ACを練習したことがある人なら、誰でも1度は経験したことがあるのではないのでしょうか？

そして、飼い主さんとの会話の中で、後でその通りのことが出て来て「あ！私もさっきそれを受け取りました！」と言ってももう遅いのですよね(>_<)

飼い主さんから答えを聞いてから、「それ私も受け取っていました！」とカミングアウトする行為は「後出しじゃんけん」にしかならないのです(T_T)

こんな悔しいことはありません(>_<)

私も過去に何度も悔しい思いをしました(^^ゞ

そして、こんなに悔しい思いをするくらいなら、感じたこと、受け取ったことは訳が分からなくても、自信がなくても言ってしまうおう！と少しずつ言えるようになっていきました。

自信がないことを伝える怖さと、せっかく正確に受け取れていたのに、後出しじゃんけんと思われしまう悔しさを天秤にかけてみましょう…

私たちは普段、自信がないことを言うことに慣れていません。

だからハードルが高く感じるかもしれませんが…

そんな時は「保険の言葉」を使いましょう。

「よく分からないんですけどこんなイメージが来ました」

「意味不明ですが、この言葉を感じました」

自分は訳が分からないという状態を、正直に受け取ったものと一緒に伝えるのです。

この前置きがあることで、だんだんと受け取ったことすべてを伝えられるようになりますよ。

2. 怖いので大きな範囲で伝える

これは、

ピンポイントに情報を受け取ったのに、外れることが怖くてジャンルを大きく言ってしまうという落とし穴です。

言ったことが「外れる」

↑この状態、とても怖く感じませんか？

もし、お金をいただいてお仕事にされているなら尚更ですよね？(>_<)

無意識に自分を守るために、あまりにもピンポイントな情報を受け取った時に、大きく範囲をぼかして飼い主さんに伝えるのです。

ACではありませんが、昔、お相手の過去をリーディングをしている時に「路面電車」のビジョンを受け取りました。

最近に限られた場所でしか走っていない、いわゆる「チンチン電車」と呼ばれているあの乗り物です。

因みに、リーディングしているお相手のお住まいを先に情報として知っていたのですが、その地域では路面電車が走っていないことが分かっていました。

すると「路面電車」とピンポイントで伝えることが怖くなり、「バスみたいな、電車みたいな、いわゆる大きな乗り物が見えて…」とジャンルを大きくしてお相手にお伝えしたところ、お相手が小さいころ住んでいた家のすぐ前に路面電車の駅があったのだそうです。

・・・(汗)

はい、この時の私の心の中は

「(ノド)・°・。」

という状態でした(^^ゞ

先程の「自信がなくて伝えない」よりも、更に悔しい思いを味わいます。

最後には「乗り物」とまで広げていたのに「路面電車って分かってました」なんて説明を後からしたとして誰が信じてくれるのでしょうか(ノド)・°・。

皆さんはこんな思いをしないためにも、ピンポイントで伝わってきたものは怖がらずに飼い主にちゃんと伝えましょうね。

3. 受け取ったものを伝える前に飼い主に質問をする

これは、ペットさんから何かを漠然と受け取ったのだけれども、飼い主に伝えるにはもう少し詳しく検討が必要なもの

・・・例えば

ペットさんに好きなものは何？と質問をして

丸くて赤いもの・・・という情報を受け取ったのだけれども、それが食べ物なのか、おもちゃなのか、はたまた全然違うものなのか…分からなかったとします。

こういう場合、それ以上情報が来ない時は、

「丸くて赤いもののビジョンを受け取りました」

と正直に飼い主に伝えるのが正解です。

しかし、自分が受け取ったものが何なのか確証を掴んでから飼い主に伝えたいという衝動にかられてしまいます。

伝える前に「合っている」という確信を得たくなるのです。

そこでやってしまいがちなのが、こちらが受け取った情報を言う前に先に「飼い主に質問をしてしまう」ことです。

丸くて赤いものを受け取った時に、まずは左脳で勝手に推理をします。

好きなものは何？って聞いた時の答えなのだから、これはきっと「おもちゃ」なんじゃないかな？

そしてこの推理が合っているのか確かめたいので、飼い主に次のような少し遠まわしな質問をしてしまうのです。

「この子は、普段ボールで遊んだりしますか？」

これは、「丸くて赤いもの」に対しての自分の推理「おもちゃのボール」が当たっているかどうか先に確証を得ようとしているところです。

で、この質問の本当の答えが「ミニトマト」だったとします。

そうなるとう本当は自分が受け取った「丸くて赤い」は正解なわけです。

でも「ボールで遊びますか？」と聞いて、「いいえ、遊びませんよ」と言われてしまったら、周りから見た場合これって「はずれ」たことになってしまいます(T_T)

もちろん、後から飼い主さんの誤解は解けるかもしれませんが、その時に「違います」と言われたショックはずっと残ります(T_T)

勿体ないですよね(>_<)

場数を踏んでいけば、何度かペットさんにアプローチして確認をし、最終的に「ミニトマト」と確定するところまで行くことも可能です。

ですが、最初からそこを目指さないようにして下さい。

まずは自分が受け取ったものを漠然とした状態だったとしても、そのまま正直に伝えることを常に心がけましょう。

3.

言葉選びに注意しましょう

「飼い主さん」と「ペットさん」この2つのエネルギーの間に通訳として入るのが「アニマルコミュニケーター」です。

特に飼い主さん側は、アニマルコミュニケーターから伝えられた言葉だけが頼りです。

でも、同じことを表していたとしても、意味合いが全然違って聞こえることがありますよね。

「出来たらやめて欲しい」

「ほんとはやめて欲しい」

「お願いだからやめて欲しい」

同じ「やめて欲しい」でもニュアンスはそれぞれこんなにも違います。

ACでお伝えする言葉は、1つ1つに「責任」を伴っているということを自覚しましょう。

言葉選びは本当に本当に大切です。

だからと言って飼い主さんを喜ばそうと「嘘」をつくのはもったいけません。

ACで受け取ったことを伝えて、日常生活に戻った時、飼い主さんとペットさんとの関係がどうなっていくのか…

お友達が大好きな異性に告白するのを、自分が一緒に立ち会って代わりに言ってあげている。

このくらいの「言葉のチョイスを間違えてはいけない」緊迫した状態を想定して、慎重に言葉を伝えるようにしてみましょう。

ACをするということは、そのくらい責任重大なポジションにいるということを、常に忘れないで下さいね。

4.

亡くなった子と話す場合

ACを学ばれている方で、亡くなった子とお話したいという方も多いのではないのでしょうか？

- 生きている時にもっとこうしてあげたかった
- 他にももっとしてあげられることがあったのではないか
- 亡くなる時に苦しい思いをしたのではないか？
- 亡くなる時にそばにいてあげられなかった

など、大切なペットさんを亡くされて、生前の後悔がないという方はまずいないと思います。

生前にペットさんに伝えたかったこと。

ペットさんから聞いたかったこと。

亡くなられた後でもそれをACでお伝えすることができます。

繋がり方は、普段のACと大きく変わることはありません。

ただ、少しだけ繋がりにくさを感じるかもしれません。

それは、ただ単に亡くなった子に繋がることに慣れていないからだと思ってください。

日頃、生きている子とのACの練習だけをしていたら尚更です。

例えば・・・

ACは猫ちゃんばかりとお話していて、いきなりワンちゃんとお話をするとき、一瞬繋がりにくさを感じるがあります。

でもこの繋がりにくさも何度か繰り返していれば次第に慣れていきます。

また、小型犬ばかりとお話していて、いきなり大型犬とお話をしたとしても、やはり同じようなつながりにくさを感じることもあります。

私たちは動物と繋がる際、ラジオのチューニングをするようにその子の「チャンネル」に自分の波動を合わせて行きます。

ただチューニングをするだけでなくラジオのFMからAMに切り替えるようなイメージをしてもらうと分かりやすいかもしれません。

亡くなっているからといって、あまり構えたりせずいつも通りにお話をされて下さいね。

また、亡くなってからどのくらいまでAC可能ですか？というご質問をよくいただきますが、

基本、何年経っていても大丈夫だと思ってください。

私たち人間もそうですが、輪廻転生を繰り返している魂に、その時、その時の過去世の記憶がいつまでもちゃんと消えずに残っています。

その部分とアクセスしますので、例えもう生まれ変わっていたとしても、当時のその容姿、性格、記憶のままにお話することは可能です。

生まれ変わりの年数については所説ありますが、私の感覚では平均4-5年くらいです。

※ただ、亡くなられてから10年、20年と、かなりの年数が経っている場合には魂が成長していて「達観」していることがあります。

その場合、ペットさんが話す内容が少しスピ的になったりします。

5.

過去生・生まれ変わりについて

ACをしていると、時々「過去世」「生まれ変わり」について扱うことがあります。

ただこれは、本当に「デリケート」な部分になりますので、取り扱いには細心の注意が必要になります。

過去世、生まれ変わりへの捉え方が、人それぞれ全く違います。

過去世や生まれ変わりについての知識も必要になりますし、伝え方を間違えると飼い主さんに新たな執着を与えてしまう原因にもなります。

場合によっては飼い主さんの運命をも変えてしまうことになりまますから注意が必要です。

責任も大きくなりますので、最初のうちは取り扱わないことをお勧めします。

そして、しっかりとスピリチュアルを学ばれてからその部分に触れていくようにしましょう。

